学校だより
とき・あかし錦城
2018 年（平成 30 年）
5月15日（火）（第4号）
明石市立錦城中学校

温かい多くのまなざしに包まれた学校

5/12（土）

授業参観・懇談会・総会へのご参加ありがとうございました。

学校長　永田　浩史

学校周辺の新緑とともにさわやかな風が吹く中、授業参観に多数ご参加いただきありがとうございました。各教室、体育館、図書室、美術室等で展開される授業に食い入るように見つめ、生徒たちの活動の様子に温かいまなざしを向けていただいていました。小学校を卒業し、中学生となった 1 年生の成長した姿をご覧いただけたでしょうか？生徒たちは緊張した様子もなく、いつもの姿で頑張っていたと感じました。

1年　学級懇談会

・各クラスでの様子

・質問事項

2年　学年懇談会

・給食の様子（DVD の視聴）

・トライやる・ウィークに向けて

3年　学年懇談会

・修学旅行に向けて

・進路説明会

《参加していただいた人数》

	参観	懇談	総会
1 年	49	40	29
2 年	61	55	29
3 年	50	51	33
全体	160	146	91

懇談会終了後には、コミセン会議室で PTA 総会、クラブ育成会総会が開催されました。

平成29年度の役員の方々はお疲れさまでした。数々の活動を展開され、円滑な学校運営ができましたことに対して、厚くお礼申し上げます。

また、今年度の役員になられた方々には、さらに充実した PTA 活動・育成会活動を推進していただき、本校教育活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

2年目を務めていただく車谷 PTA 会長の、「1年たって、やって良かったなと言える PTA 活動にしましょう」の言葉のもと、本校教職員とともに PTA 活動を盛り上げていきましょう。

万緑の中や　吾子の歯　生えそむる

中村　草田男

ツバメの子育て

「渡り鳥のなぞ」から

ツバメは、“春の使者”とも言われ、木々の新芽が顔を出し、虫たちが目を覚ます早春に遠い南の国から日本にやってきます。不思議なことに地図もコンパスも持たないのに、去年と同じ巣に戻ってくるのです。そして、壊れた巣があれば補修し、卵を産んでひなをかえし、育てていきます。ちょうど今頃、近所の家や建物の軒先に、ピーピーと鳴く子ツバメの姿を見ることができると思います。

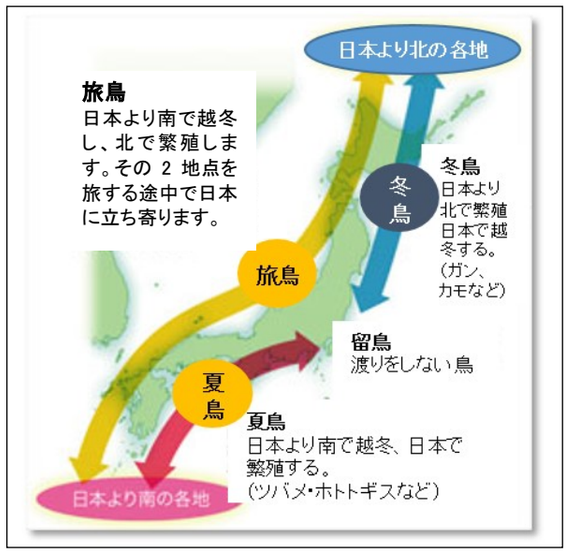
親ツバメは、自分が見つけた虫をくわえ、せっせと巣に戻り子ツバメに食べさせます。子ツバメの声と親ツバメの飛ぶ姿、虫を与える姿に“生命”のつながりを感じます。やがて、子ツバメは成長し、飛び方を教えてもらい、冬になるまでに数千キロも離れた南の島に飛び立ちます。

体長わずか20センチくらいのツバメが、自分の力だけで海の上を飛び続け、“渡り”をするわけです。自然界の中で、“自立”ということは、“生きていく”ということに他ならないと感じます。雨や風、ケガや病気、体力にもあれこれと問題や課題があることでしょう。しかし、春先から親の愛情あふれる“保護”を受け、“自立”したツバメとして、厳しい“渡り”という試練に立ち向かうわけです。

中学生の皆さんは、親の愛情、“保護”の中で、少しずつ“自立”することを学んでいます。君たちも子ツバメたちと同じように、自ら学ぶ姿勢を持って成長してほしいと願っています。

とき・あかし　4「渡り鳥　夏鳥と冬鳥」

ツバメは「夏鳥」。

日本での産卵期は4～7月頃で、子育て後の越冬地は台湾、フィリピン、ボルネオ島北部、マレー半島、ジャワ島などです。

一方、シベリアやオホーツク海沿岸で繁殖し、冬季は温暖な日本などへの渡りを行い越冬する“白鳥”などは「冬鳥」と言われます。鳥からすれば、温かくなるから北上し、寒くなるから南下するのですが、日本を起点にしてみると、冬にやってくる冬鳥、夏にやってくる夏鳥となるわけです。